

瀬戸内市本庄の三傑に学ぶ子どもたちの詩や画・書・研究 朗読発表会

西浦千万太教育研究会

活動の目的

(1) ねらい

- ① 瀬戸内市本庄に明治時代同時期に育った三傑（医学者古武弥四郎博士・詩人正富汪洋・詩人で画家 マルチアーティスト竹久夢二）の友情と志、切磋琢磨している姿を現在の子どもたちに伝える。三傑に学んで詩や画・書を書き研究したことを三傑のふるさとで発表会を行い郷土愛を高める。
- ② 書くことに興味を持ち、慣れ親しみ、進んで書こうとする子どもを育てる。
- ③ 教室外で朗読する場を設定し発表する喜びを味わわせる。
- ④ 本庄地区コミュニティセンターに展示会場と舞台を設け、応募者や家族など多くの子どもたちや地域住民の触れ合いを深める。

(2) 期待した成果

子どもたちの学力を上げるには書くことを嫌がらない子どもを育てることが大切です。岡山県の子どもたちの学力が全国で低迷している現状に対して家庭や地域は危機感が薄いように感じられ、地域から教育に対する雰囲気盛り上げたい。

地域、特に高齢者は学校で子どもたちが活動している様子を見る機会が少ない。子どもたちが地域に出て行き発表会を開くと子どもたちへの関心、理解が深まる。「学校の充実が地域の充実となる」といった考えを広めたい。

活動の内容及び成果・効果

(1) 作品募集

6月、「三傑に学ぶ詩と画・書」の作品募集の趣旨と応募要項を作成し、瀬戸内市内各小中学校に案内しました。

1学期間の学習内容や夏季休業中の自由学習を活かした作品あってよいことになっています。要は書くことを嫌がらないで喜んで書く子どもを求めているものです。9月集まった作品は150、学校数7校でした。夢二生誕130年記念の年から始めて4年目になりますが、徐々に学校の理解と協力が広がり、作品が増えています。作品が増えたものの文章作品が今年は少なく残念でした。しかし、うれしい便りももらいました。「三傑に学ぶ詩と画」の作品募集を始めた年に小学校4年生の児童でした。その時から毎年詩を書いてくれ今年は中学1年生になっている生徒です。「お手紙ありがとうございます。今年も書かせていただきました。もしかしたら今年もお手紙をいただけるかもしれないと、楽しみにしていました。うれしすぎてたくさんかいてしまったのでどれかにしぼってもらってもかまいません。また来年お手紙をいただけたらうれしいです。その際にはぜひ書かせてもらおうと思っています。」この手紙を読むと「書くことが好きで進んで書こうとする子どもに育っている」とうれしくなりました。

(2) 文集編集、制作、印刷

9～10月、集まった作品を編集し、コンピュータに打ち込む作業に精出しました。印刷・製本は業者に依頼して、150部製作しました。

10月下旬、文集が出来上がると11月11日（土）に予定している朗読発表会の段取り始める。

(3) 司会・進行、朗読者の募集

作品を寄せてくれた児童生徒を中心に平成29年11月11日（土）「三傑に学ぶ詩と画・書 朗読発表会」の募集を出す。

活動は児童生徒の自発性の伸張を意図しているのでできるだけ自主的な名乗り出を期待しています。司会進行は、邑久中学校図書館司書の協力声かけにより生徒が毎年数人申し出てくれ、良い経験をしたと喜んでもらっています。

司会進行は抵抗なく決まりましたが、作品発表者がなかなか決まりません。これは毎年苦心することです。家族・保護者の日時の都合や子どもの意欲の問題もあり最終決定までには時間がかかります。

(4) 発表会

瀬戸内市本庄の三傑（古武弥四郎・正富汪洋・竹久夢二）に学ぶ子どもたちの詩と画朗読発表会

平成29年11月11日（土）9：30～11：00

場所 瀬戸内市邑久町本庄地区コミュニティセンター



①会場作り 発表会前日の11月10日午前8時本庄地区コミュニティ協議会の役員さん方と主催者として会場設定と作品展示を行いました。9時にはあいあい保育園児が自分たちの応募した作品を見学に来るというので急ぎました。

②発表会当日の様子

プログラム

司会・進行 邑久中学校生徒 出井・松本・大西さん

- 1 開会あいさつ
- 2 来賓紹介・あいさつ
- 3 子どもたち本人や友達による日記・詩・俳句・感想文等作品の朗読発表
- 4 子ども夢二新聞の紹介
- 5 三傑に学ぶ「堅忍不拔」・「柿の実に 柿の味」・「泣く時は よき母ありき」の三傑が残してくれた言葉から学びましょう。
- 6 三傑のふるさと紹介
- 7 閉会あいさつ

児童生徒は9時に集合して初顔合わせ、打ち合わせ、リハーサルもなしに本番という運びになりましたが子どもたちは平素学校で身に付けた力を十分発揮してそれぞれ頑張りました。最初はしぶん緊張しているようでしたが次第に慣れて終わると十分満足しているようでした。

今年初めて司会進行、朗読役を申し出た中学生男子生徒の母親は「平素おとなしくて人前に立つ経験のないわが子が大丈夫心配だから参加した」と言われていた。学校の大勢の中では活躍の場がなくてもこういった場で自信と勇気を持つことができた子どもがいれば素晴らしいことです。

今後の課題と問題点

- ・ ねらいの第一に上げている三傑を知り、三傑に学ぶ機会を三傑のふるさとで4年間継続できたことはそれなりに意味があったと実感している。
- ・ 子どもたちの学力を上げるには書くことを嫌がらない子どもを育てることは当然のことである。ところが簡略簡便を求める社会になり年々書くことを面倒がるようになっていく。今年の募集状況からもそのように感じました。
- ・ 朗読・発表力について日頃の学校教育でよく育っているように実感しました。地元小学校の学習発表会を參觀しましたが、詩の群読等よく指導されているようで地域役に立つとすれば発表の機会を設定する程度であると感じています。
- ・ この活動を継続するためにはしっかりとした組織で行わなければならないと感じています。地域と学校協働事業のよい姿の一つになればと願っています。

●代表者：西浦千万太 ●所在地：瀬戸内市邑久町尾張

●TEL：0869-22-0233